



No.103
2020.4.30

SEA NEWS



- ① …各連盟・諸事業の中止～延期情報 技術委員会・1種・2種・3種
- ② …各連盟・諸事業の中止～延期情報 4種・女子・シニア・フットサル
- ③ …「埼玉県社会人サッカー連盟」40周年記念対談 富岡孝三会長&清水勉理事長代行
- ④ …「埼玉県社会人サッカー連盟」40周年記念対談 (続き)
- ⑤ …「地域で種別を超えた交流を」～鈴木 豊(浦和南高校)施設委員長インタビュー
- ⑥ …鈴木 豊(浦和南高校)施設委員長インタビュー (続き)
- ⑦ …鈴木 豊(浦和南高校)施設委員長インタビュー (続き)
- ⑧ …大会記録●県内大会 1種・3種・4種 ●県外大会 1種 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

「各連盟・諸事業の中止～延期情報」※4月26日現在

●技術委員会 (福田直史委員長)

【講習会関係】

指導者養成(C級・D級・キッズリーダー)

無期限の延期

リフレッシュ研修会の講習

中止ですが、失効者もいることから特別措置としてレポート提出対応とします。(～5月まで。6月以降は未定)

【国体関係】

国体関東予選少年男子

関東トレセンリーグは中止となります。高校総体中止に伴い、8月22日23日に実施

国体関東予選成年男子・女子

現時点では8月22日23日予定通り実施

強化行事は5月末までは中止

【トレセン関係】

関東トレセンリーグ、県内トレセン

5月末まで活動は中止。キッズ関係の活動も5月末まですべて中止。6月以降の技術委員会主催の活動については種別活動などの再開状況を見て検討します。

●審判委員会

【新規講習会】

現在予定しておりました2020年度サッカー・フットサル新規講習会をすべて中止とさせていただきます。

国や県からの通達に基づき、新規講習会が開催できると判断した場合には、(公財)埼玉県サッカー協会WEBサイトにてご案内いたします。

●1種 (植松孝博委員長)

【自治体】

埼玉県自治体職員サッカー選手権大会 5月9日～23日→延期

【社会人】

関東リーグ 7月11日～ →予定

県リーグ・各地区ブロックリーグ →未定

全国クラブチームサッカー選手権埼玉大会

6月7日～7月19日 →中止

全国クラブチームサッカー選手権関東大会

9月19日～21日 →予定

全国クラブチームサッカー選手権 10月24日～27日 →予定

市町村対抗戦兼県民総体 2021年2月7日～3月14日 →予定

各地区ブロックリーグ決勝大会 10月18日～11月22日 →予定

県リーグ昇格プレーオフ 11月8日～12月20日 →予定

県1部2部3部リーグ入替戦

11月8日～12月20日 →予定

埼玉・栃木交流戦 12月13日 →予定

埼玉・東京交流戦 2021年1月10日 →予定

埼玉県社会人サッカー選手権大会会長杯予選

11月29日～12月20日 →予定

埼玉県社会人サッカー選手権大会会長杯

2021年1月10日～3月7日 →予定

埼玉県社会人選抜選考会 10月25日～2021年1月13日 →予定

全国社会人サッカー選手権大会関東予選代表決定戦

2021年3月7日～3月21日 →予定

全国社会人サッカー選手権大会関東予選

6月7日～6月21日 →7月26日～8月9日

全国社会人サッカー選手権大会 10月16日～21日 →予定

日本スポーツマスターズ2020 9月21日～24日 →予定

日本スポーツマスターズ2021埼玉大会

11月22日～12月6日 →予定

全国地域サッカーチャンピオンズリーグ 11月6日～23日 →予定

【大学】

県リーグ 6月6日～ →前期中止

関東リーグ 5月30日～ →延期濃厚

アミノバイタルカップ埼玉県予選 5月2日～31日 →延期

アミノバイタルカップ・プレーオフ 6月13日・14日 →予定

アミノバイタルカップ 6月27日～7月5日 →予定

総理大臣杯 8月27日～9月6日 →予定

関東大学サッカー大会 10月31日～11月22日 →予定

全日本大学サッカー選手権 12月9日～20日 →予定

【1種】

「彩の国カップ」埼玉県サッカー選手権大会 4月18日・5月9日 →延期

ミニ国体 8月22日23日 →予定

鹿児島国体 10月8日～11日 →予定

●2種 (池田一義委員長) ※県高体連についてのみ

関東大会 開催されません。予選も行いません。

総体予選・リーグ戦 6月以降の開催を予定しています。(全国総体の実施は現時点未定)

リーグ戦 9節のみ行う予定です。昇降格については検討を進めます。

5月7日(木)以降の国や県からの指示を受け、スケジュールを考えます。

4月28日(火)4支部の会議は開催を取り止め、5月13日(水)の顧問総会で一括します。(方式は検討中)

● 3種

【中体連】(谷地田昌史委員長)

現段階では、中体連の指導者講習会と審判講習会が中止になりました。

他の大会等は現段階では未定です。

【クラブユース】(烏井朋紀事務局長／総務委員長)

クラブユース連盟はすべての事業が止まっている状況です。

今後の公式戦の再開(開始)は未定としております。

● 4種 (東島雅之委員長)

4種リーグ戦

5月から実施したいとしておりましたが、非常事態宣言もあり、状況にもよりますが、6月からの開催を目指す。(私案)

関東大会中央大会

6月21日、28日で実施予定としているが、地区予選が5月に開催できない場合は日程変更も検討せざるを得ない状況である。

● 女子 (渡辺典子委員長)

【一般部会】

・県リーグは、現時点では7月から開催予定。7月にも開催できない場合は方法を変え試合を行う。

・関東大会等が行われる大会の場合、その出場に向けての予選が出来る場合とできない場合を考えながら対応する。

・JFA や KFA の判断、指示により都度対応する。

【レディース部会】

・関東レディースO-40大会は中止。

【高校部会】

・県大会、関東大会ともに開催未定

どちらもインターハイ予選になるためインターハイの開催可否により動きが変わる。

・県大会は延期

【U-18部会】

・XFCUP 2020 第2回日本クラブユース女子サッカー大会は延期。

【U-15部会】

県女子U-15リーグサッカー大会は延期

5月6日から活動ができたとしても開幕は6月中旬頃と思われます。

今シーズンの公式戦は厳しいと思われる。

関東女子リーグ 1、2部

前期中止。後期は 6月20日2部、6月21日1部から。ただし、神奈川大が7月31日まで活動不可のため変更の可能性あり。

関東U15女子サッカーリーグ

前期中止。後期日程のみ1回戦で実施

JCYU18女子関東予選 全試合延期

● シニア (秋谷仁委員長)

【主催大会】

2020年埼玉県サッカー協会会長杯O-40サッカーリーグ 1・2・3部 →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県O-50サッカーリーグ1部・2部 →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県O-60サッカーリーグ →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県O-65サッカーリーグ →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県O-70サッカーリーグ →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県O-75サッカーリーグ →5月末日まで中止・延期(延期後の日程は未定)。

2020年埼玉県民総合スポーツ大会兼埼玉県O-40サッカー選手権 →9月～12月開催 予定通り

2020年埼玉県O-50サッカー選手権大会 →9月～12月開催 予定通り

【全国大会関東予選】

JFA第8回全日本O-40サッカー大会関東予選会(栃木県開催) 7月4日・5日 →予定通り

JFA第19回全日本O-50サッカー大会関東予選会(山梨県開催) 4月25日・26日 →中止 日程・会場合わせ検討中

JFA第21回全日本O-60サッカー大会関東予選会(千葉県開催) 11月28日・29日 →予定通り

JFA第15回全日本O-70サッカー大会関東予選会(群馬県開催) 10月31日・11月1日 →予定通り

【関東大会】

KTFA第14回関東O-40サッカー大会(神奈川県開催) 12月12日・13日 →予定通り

KTFA第14回関東O-50サッカー大会(神奈川県開催) 11月7日・8日 →予定通り

KTFA第15回関東O-60サッカー大会(千葉県開催) 9月21日・22日 →予定通り

KTFA第8回関東O-70サッカー大会(茨城県開催) 12月5日・6日 →予定通り

【全国大会】

JFA第20回全日本O-60サッカー大会(秋田県)

6月6日～6月8日 →日程・会場変更の可能性あり

JFA第14回全日本O-70サッカー大会(秋田県)

6月6日～6月8日 →日程・会場変更の可能性あり

JFA第19回全日本O-50サッカー大会(静岡県)

6月27日～6月29日 →変更の可能性あり

JFA第8回全日本O-40サッカー大会(Jビレッジ)

11月7日～11月9日 →現在予定通り

● フットサル (早川祐司埼玉県フットサル連盟理事長)

県フットサルリーグ → 延期

2020年度埼玉県フットサルリーグの開幕について、当該リーグ参加者の多くが居住しておられる埼玉県、東京都、千葉県の各自自治体より、「不要不急な外出の自粛のお願い」の要請がなされなくなった時期から、概ね1ヶ月以降に各リーグ順次開幕をする方向で検討して参ります。ただし、状況によっては、修正する可能性があることをご承知おき下さい。

・連盟事業すべてにおいてこの指針の通りとなります。

・委員会事業については関東FAからの指針が出ないのでまだアナウンスできません。

「埼玉県社会人サッカー連盟」40周年記念対談

地域で種別を超えた交流を ～富岡孝三会長&清水勉理事長代行～

2019年度で40周年を迎えた「埼玉県社会人サッカー連盟」。その頂点には、浦和レッドダイヤモンズ、大宮アルディージャがあるものの、三番手となると関東サッカーリーグ2部のさいたまSCと東京国際大学FCと「距離感」があります。強化という面が目につきやすいのですが、広がり、継続という面でも課題を抱えています。

節目の年、富岡会長と清水理事長代行に課題とこれからについてお伺いしました。（聞き手:広報委員/県社会人連盟理事 荒川裕治）

記念式典中止について

—「埼玉県社会人サッカー連盟」40周年記念、おめでとうございます。ただ、新型コロナウイルスのせいで、記念式典ができなかったのは残念でしたね。

清水 ここまで連盟に関わってこられた諸先輩に感謝を申し上げる場が無くなったのは、非常に残念でした。ただ3月7日の開催予定でしたが、富岡会長の早い判断でキャンセルでき、少なくとも連盟関係では大きな問題が起きなかったことで良しと考えています。

富岡 キャンセルに関しましては、会場を予定したラフレスaitama様など、多くの皆様にご迷惑をおかけしてしまいました。それでも、あの時点で中止としたことは間違っていないかと思っています。実際早くから、ご参加予定の皆さんから「会社からの通達で」等の理由で欠席の連絡をもらっていたので、とにかく早い対処をしなければと思い、緊急理事会を開催して承認していただきました。



富岡 孝三 会長

清水 早かったですね。いい対応でした。お疲れ様でした。

富岡 この場をお借りして、ご参加いただくはずでした皆様に、改めてお詫び申し上げます。また、ここまでのご尽力に感謝申し上げますと共に引き続き、よろしくお願い致します。

社会人サッカーの移り変わり

—さて、40周年という節目にあたり、社会人サッカーの現状とこれからを語り合っていたきたいと思います。その前にお二人の、連盟の役員に就任された経緯を教えてくださいませんか。

富岡 まだ20年くらいだと思いますよ。1976年くらいに川口市が連盟から協会に変わる頃に、市の理事になって……。その5年後に川口SCの代表になったから。チームの方があったので、まだ20年ですね。その間、門田さん（吉郎氏）、そして野沢さん（昌弘氏）がお亡くなりになったので引き継ぎました。

清水 ちょうど12年前、前理事長の天沼さんに声をかけられたのが最初でした。まずは事業委員会に入り、それから財務委員長になって6年ですね。

富岡 理事の最初は事業委員会からですね。まずは東西南北の4地区の状況を知ってもらう必要があります。そこから適した委員会に行ってもらおうのです。清水さんには財務をお願いしたんですね。

—その中での変化、移り変わりの思い出、印象に残っていることがございましたら、お話ください。

富岡 昔は会社のチーム、実業団が多くて、そこに高校などのOBで作った地域のクラブでリーグ戦をしていました。それが

今ではJリーグを目指すチームも出てきました。連盟とは違いますが、県協会は社会人サッカーで成り立っていたところに、高校、少年団と繋がっていきました。様変わりしてきましたね。そして、社会人連盟だけを見ても、大学のチームが入ってくるようになりました。

清水 熊谷だと昔から市民リーグに立正大学のチームが入ってきていましたね。

富岡 課題はそこでしょうか。県リーグの1部、2部だけでなく、地域のリーグで大学生のチームが席卷しています。県外から来た大学生たちが、埼玉に残ってサッカーを続けてくれればいいのですが。そこに今、少子化があり、選手たちの高齢化もあります。この10年はすこし落ち着きましたが、フットサルに流れてい



清水 勉 理事長代行

く人が多かったですね。それでも全国的に見たら、埼玉は多いのですが、新規の登録チームが少なくなっています。なかなか成り立っていかないのが現状のようです。

清水 既存のチームに入りたがらない人が多いですね。それも何人が友達と一緒に入るならばいいけれど、一人だとイヤだとかという話を聞きます。それで、辞めるときも一緒（苦笑）。同年代同士で仲良く始めるのはいいけれど、年齢を重ねる中で仕事の都合、結婚、子育てとなって、続けられなくなってしまうんですね。

富岡 お金もかかります。上のカテゴリーで戦えば戦うほど、お金がかかるのです。どのようにしてチームを維持していくのかという問題にぶちあたります。

—チームを作りたてだと誰もが若いので、勝てちゃうんですね。すると昇格することになって、費用が増えていってしまいます。「その先」を考えてほしいものですね。

清水 連盟としても、地域としても、どのようにしてサポートしてあげられるのかを考えてしまいます。

富岡 他県を見ると、補強をしていかないと勝ち続ける、勝ち上がることは難しいですね。そのためにも、スポンサーをつけるなども必要なことです。

それと今年、オーバー35の関東大会を観て感じたのは、我が埼玉のチームの年齢層の高さです。いや、実際プレーしている選手たちの年齢層は変わらないんですよ。ただ他県だとオーバー35の選手はシニアでプレーしているのが普通になっています。それが埼玉県だと、県リーグでプレーしている選手たちなんです。他県の選手たちは、チームで“若手”。埼玉県の選手たちは、チームで“ベテラン”ですから。

—全体的に新陳代謝できていないという面と、チームではベテランだから、それなりの扱いをされている選手たちの集まりということなのですね。

富岡 これからどうなっていくのか、不安ですね。

清水 みんなサッカーは好きなんです。先ほども言いましたが、それは仲間うちの話だけで、チームが増えていきません。私は本庄市協会の役員もしていますが、頭が痛いところです。やりたそうな人に声をかけても、既存のチームを紹介しても上手くいかない。また「足りないから、入ってくれる」と言うが入ってくれるけれど、続かない。

—サッカーが“遊び”になっていますね。

清水 生涯を通じて楽しむ、までにはいってないんでしょうね。サッカーもポジションに応じて様々な役割がありますが、今絶対的に不足しているのは、とりまとめられる人材。地元でも選手としての人材はいるんです。ただ「呼ばれば行きます」という受け身なんです（苦笑）。潜在的な人数からいえば、あと2、3チームできてもいいのですが。

金銭的課題、人的課題

—もったいないですね。そういう話を聞いていると、お隣の東京都の社会人リーグはとてつもなく熱いですね。都1部、2部に元Jリーガーがいて、上位リーグを目指しています。

富岡 まだ、この首都圏にJクラブが必要でしょうか？ 理解のあるスポンサー、さらには競技場を持っている行政からの確約が無ければ、上を目指すことはできません。

例えば、川口市でもアヴェントゥーラ川口（県1部）がJリーグを目指していますが、青木町公園陸上競技場を改修するなどの確約がなければ、Jリーグが定めるライセンスをクリアできませんからね。

私案ですが社会人リーグを、プロを目指すリーグとアマチュアに徹するリーグと分けるのはどうでしょうか。この数年の「関東社会人サッカー大会」（都県リーグ上位が関東リーグ昇格を賭けたトーナメント）を見てみると、プロ選手を補強しなければ勝てませんし、補強しても勝てるかどうか分からない状況になっています。資本力が勝負を分けるような状況なのです。この大会に埼玉県からは上位4チーム出場できるのですが、昨年はずべて1回戦負けという状況です。

県社会人連盟としては、強いチームを作っていくかなければならないという使命感はありますが、他県を見るに元プロ選手たちがいつまで入ってくるのかが見えませんね。誰もが夢見ています。強くなればスポンサーがつくと。しかし、継続して強化していかなければ離れていってしまいます。

清水 プロ選手頼みの強化は限界がくると思います。今、富岡会長がおっしゃった通り、県社会人連盟として強化も掲げていますが、今はシニアチームが増えているところです。となると、強化と同様、生涯スポーツとしてのサッカーのあり方を考えなければいけません。となると、裾野をどう広くするのか、底辺の充実が求められます。うーん、どちらかと言えば、後者である底辺の充実に向けて、大きく舵を切るべきかと考えます。

強化という面は県リーグで注力していますが、その分、裾野である市町リーグが成り立っていない現状もあります。県3部に昇格したけれど一年で降格して、そのままチームが解散したという話も耳にします。チーム数が増えて、県3部を作った経緯がありました。今一度、リーグそのものの見直しをするのも急務です。

今、東西南北で市町リーグができています。南部くらいです。

富岡 そうですね。3部を作ったときは、その下の市町リーグに7～8チームはいましたが、少なくなりましたね。実際、市町リーグが無くなったことで、3部から降格することになっても、降格するリーグが無くなっていますから。南部でも藤のチームは川口で受け入れていますね。



清水 リーマンショックで企業がチームを手放したことで登録チーム数が減ってしまいました。

富岡 またJFAの登録制度が確立して、全チームに登録の義務が生じました。「そんなお金はない」というチームも多かったですね。その隙間にwebサイトでフレンドリーマッチをコーディネートする業者も出てきました。お金の処理・管理ができないチームが消滅していききましたね。

過渡期の理事会。活性化が急務

—昔からチームの世話役がいないととまらなかつたと思います。

富岡 自分たちがプレーしていた頃は、先輩たちが自腹切っていましたよ。ただ、今はそれでは続けられませんか、仕組みを変えていかなければならないでしょう。

もっと地域密着のチームが増えてほしいですね。高校の、地域のつながりの中でサッカーを続けてほしいと願っています。あと今、地縁で繋がっているチームは「強くないから」と入ってくれないという話も聞きましたね。それにただサッカーをするだけに来ているという若い人が増えているとも聞きます。

清水 少年団の頃から、親が面倒を見てくれますからね。だから、ラインを引けない人が増えていますね。準備や片付け、全部親がやっていますから、できないですよ。ついでに、保護者からよく言われるのが「社会人の選手たちの態度が悪い」と。どうなんですかね（苦笑）。

—ならば、もっと地域の中での連動、高校や中学、そして4種との連携というのを活動の主軸として打ち出すのも手ですね。

富岡 そうです。サッカーは続けていかないと面白くないと思うんです。そのためには地域の中で4種から社会人までの流れ、連携を作っていくかなければいけませんね。

昔は高校のチームと練習試合をしていましたし、交流がありました。川口SCだと、埼玉教員クラブを引退した広羽さん（良一氏。元SFA副会長）、藤井さん（泰光氏。元国際審判。元SFA副理事長）など教員の人が入ってくれたからでしょうか。特に広羽先生は生涯川口工業高校でしたから、その流れで教え子が川口SCに入ってくれて……高校を卒業した後、サッカーを続ける選択肢の一つに地域の社会人チームがあったんですよ。

清水 本庄市では、ここ数年ですが、4種との交流を行っています。ちょうど3月の卒団式にお邪魔して一緒にボールを蹴っています。ただ、4種から1種だと「距離感」がありすぎるので、ここに3種、2種を入れていきたいですね。特に中学の状況を聞く

と、一つの中学でチームが成り立たないそうですから、そういうところに入っていき、コーチでも練習相手でもできればいいと思います。

富岡 高校の先生たちが社会人と交流してほしいですね。まずは川口で復活させましょう。これが次の50年に向けての第一歩になりますね。では次の50年に向けて、清水さんに締めてもらいましょう。

—いい流れですね(笑)。富岡さん、もういいんですか？

富岡 いいです。清水さんをお願いします。

清水 では……今、県社会人連盟は過渡期だと思っています。これまで登録の手続きをやってきましたが、年々チーム数が減って、ピークの500強から今は350程度。これでは先ほどもお話をしましたが、新チームはできませんし、ブロックリーグ(市町リーグ)が開催できません。

そんな中で理事会を開催しても、既存の大会に関する話ばかり。これでは衰退していくばかりです。目の前の大会のための理事会になっているのですから。それは事業委員会でやっていただき、連盟の活動とはかくあるべき、という話し合いをしたいのです。理事会そのものをどうするのか。今、変わるべきだと考え

ています。

昨年、急な形で理事長代行となり、新年度からは改めて理事長に推挙いただいています。目指すは活性化です。理事一人ひとりが受け身にならず、責任を持って将来のことを考えてくれるよう、お願いしたいと思っています。

—理事会の活性化によって大きな変化も期待

されます。人材はいるはずで。組織が活性化することで、振り向いてくれる若い人たちも出てきてくれると思います。土壌はあるのですから。そのためには地域交流。より具体的な方策を打ち出す必要があるでしょうが、各チームにもがんばっていただくことになるでしょう。引き続き、よりよい組織となっていくことを期待しています。ありがとうございました。



「地域で種別を超えた交流を」

～鈴木 豊(浦和南高校)施設委員長インタビュー

この数年で各市、私学を中心に人工芝グラウンドが各地で建設され、昨年4月にはSFAフットボールセンターを開設したことで、県内のサッカー環境は少しずつながら向上してきています。もう一昨年になりますが、長きにわたって施設委員長を務めた二瓶省三氏が勇退し、鈴木委員長が後を託されました。強豪校の顧問という立場、県高体連では長く運営に携わっていた経験など買われた要素は多く、新たな「施設委員会」の構築が期待されています。一期二年が終わった時点、そしてこれからをお聞きました。

(聞き手、広報委員・荒川裕治)

施設ができる中、何ができるか

—今更、という感じもしますが、就任早々にお聞きするよりも、逆に落ち着いてからの方がいいかと思っていました。施設委員長に就任して一期二年が過ぎました。まずはこの二年を振り返っていただけますか。

鈴木 そもそも、どうして自分が……というのはありましたが、前任の浦和東高校時代、埼玉スタジアムの第4グラウンドをたびたび利用させていただく中で、埼玉で勤務していた前委員長の二瓶先生からいろいろと教えていただいたからかな、と思ってはいました。実際、何をすべきかわからないまま就任して、アイデアを出す余裕もないままここまで来たという感じです。二瓶先生時代は、会場利用における種別間の調整が主だったと思います。私自身、県高体連の施設、運営について長く携わっていましたが、この二年でようやく県全体、種別全体を見ることができるようになったところです。

—実際、県全体を見て感じることは多々あったのではないのでしょうか。

鈴木 全県を見渡すと、様々なところで人工芝グラウンドができてつつあることがわかりました。ここ1、2年では三郷、所沢、和光、ふじみ野、狭山、そして私学の高校、各大学と。そういう動きに対して、施設委員会としては何ができるのかを考えるようになりました。もちろん、どのグラウンドも持ち主は行政であり、高校、大学なので具体的に何か、というのは難しいのですが。

そこで考えたのは、利用に関しては提案できるのではないかと。思っているのは、そのグラウンドを利用した種別、世代を超えた交流です。というのは、各所で行われるグラウンド利用

の調整会議に出席させていただくのですが、本当に埼玉県はサッカーをする人が多いですね。皆さんが集まっている場に参加させていただき、改めて確認しているところです(笑)。当然ですよ、社会人、3種、4種、女子、シニアまであるのですから。

と考える中で、高体連の県大会を運営するにあたって、私が勤務するさいたま市にあるグラウンドだけでできるかといえば、無理です。熊谷の

高校の先生に「くまびあ」(旧熊谷市立女子高校)を予約していただき、戸田だと南稜高校の先生に「惣右衛門サッカー場」を予約していただくわけです。こういうことは、高体連の中だけでなく、それぞれ先生たちが各自の地域の中で種別を超えた交流をしてくださっているからです。高円宮杯U-18埼玉県リーグの1部と2部に関しては、なんとか人工芝グラウンドで試合をさせてあげたい。「いい環境を与えたい」というのが、我々の考え方ですが、熊谷や戸田などのグラウンド調整は、私では手が届かないわけですから、高体連の内部でも「地域とのコミュニケーションを」とお願いしているところです。実際問題として、調整に尽力していただいた先生が顧問を務める高校が勝ち上がって、そのグラウンドのピッチに立てるかどうかは別です。立てないかもしれないけれど、調整して下さる皆さんには本当に感謝して



鈴木 豊 施設委員長



います。

特に昨年度は、高校選手権の決勝トーナメントは全試合、天然芝もしくは人工芝のグラウンドで開催することができました。地域交流の成果の賜物だと思いますね。

練習試合を通して、顔が見える関係を

—実際、地域や種別で交流、という面では、何か具体的なものはありますか。

鈴木 種別で譲り合うということはこれから進むのではないのでしょうか。そういう面では社会人に期待しています。市町の行政に近い方が役員には多くいらっしゃいますから、もっと市町と調整していただき、県ではなく市町のグラウンドで上手く調整していただきたいと思っています。

—私学の高校、大学で考えられる交流とはどんなものがあるのでしょうか。

鈴木 私学の学校は自分たちのために造っていますから、自分たちの利用を最優先にして考えるのは当たり前です。浦和東時代は、よく県内外の大学に行き、練習試合をしてもらいました。生徒たちから見れば、上手くいけば進学ということもあります。大学の雰囲気も感じられますし、何よりも大学サッカーに触れることができます。実際、進学する生徒が増えていくと「何かあったら、お貸ししますよ」と声をかけていただくこともありました。そういう繋がりが大事だと思いますね。

あと、現在勤務している浦和南高校も人工芝グラウンドになり、南浦和中の生徒や辻小の子どもたちが利用することもあり



浦和南高校グラウンド

ますし、社会人のさいたま市役所サッカー部やさいたまSCも使っています。地域コミュニティの場として利用するという意識を持ってもらうだけで広がっていくと思います。

私たち高校の指導者は上の種別にアプローチしていますが、私たちに対しては4種、3種からアプローチしてほしいですね。顔が見える関係を作れることが大事だと思っていますし、進路の選択肢として考えていただけるのはありがたいことです。

あと、3種のクラブの選手たちの声として、自分たちの試合が多いことから、なかなか高体連の試合を見に行くことができないという話も聞きます。中体連だとそこまでタイトではありませんからね。2種の立場からいえば、もっと3種と関わりを持ってほしいのです。高校生も大学サッカーをあまり観ていません。埼玉や川口・青木町公園で試合をやっていますが、なかなか行けません。実際、練習試合で行ってボコボコにされた方が、イメージが沸くようですけどね(苦笑)。

安全面、駐車場、ゴミ……

—一つながりができることが大事ですね。それが「地域」であれば、根強いものになります。そういう場になってくれれば最高ですね。さて、お話にもありましたが、浦和南では人工芝グラウンドになりました。改めて、人工芝のメリット、デメリットをお聞かせいただけますか。

鈴木 メリットとしては雨でも練習できるという点です。予定通り練習ができることそのものがメリットです。

チームを見るとパスサッカーを目指すところが多くなっていますね。あと、コントロールが上手できるようになり、選手がボールを持ったときの視野は広がっていると思います。

逆にデメリットとしては、人工芝に慣れるとプレーそのものを誤魔化すことができるんですね。キックでもコントロールでも、なんとなくできてしまう。それがクレーのグラウンドのチームだとパススピードとコントロールにこだわってきますから、勘違いしません。ですから浦和南だとBチームは積極的に他のチームと練習試合するなどして、外へ出すようにしています。また隣接するクレーのグラウンドでも練習させて、しっかり蹴ることができるように務めています。やはり基本が大事で、天然芝はちゃんと蹴れないと前に運べませんし、雨が降れば余計にキック力が求められます。そういう面ではつなぐこともできて、蹴ることもできるように指導されるようになってきていると思います。

あとはケガが長引くような気がします。手の付き方が悪かったり、人工芝にひっかかって膝が持っていられるとか、骨折するのが気になります。思うに、人工芝対応のトレーニングも必要なの



立教新座高校グラウンド

かもしれません。ただ、それが下半身中心でいいのか、腰重視でやればいいのか、まだわからないですね。

—安全面の向上は早急をお願いしたいことです。また成長期に人工芝でいいのかという議論は続いています。その中で天然芝も絡めた「ハイブリッド」も出てきました。ぜひ、こういう議論も各方面を交えながら進めていただければと思います。

さて、少し話を変えて、各試合会場でのトラブルについてです。県内のグラウンドには絶対的に駐車場が無いという課題はありますが、どのように捉えていらっしゃるでしょうか。

鈴木 駐車場問題に関しては、会場周辺については各大会で警備会社をお願いして整理してもらっています。ただ違法駐車が増えてきているのは確かで、その都度報告をもらっています。

—駐車場の空き待ちの渋滞というもあります。試合が始まれば、簡単に入りはらないのですが、それでも待とうという方もいらっしゃると思います。

鈴木 モラルですよね。会場周辺の住民の皆さんにご迷惑をおかけすると、試合ができなくなってしまいます。ご配慮いただきたいものです。

あとはゴミの問題もあります。先日もフットボールセンターで、明らかに家庭ゴミだと思われるものが捨てられていました。こういうことが頻繁に続くようでは、制限も必要になってしまいます。やはりマナーであり、モラルが重要ですね。そういう告知も、もう少ししなければなりませんね。

情報共有を求めて

—やりたいこと、やらなければならないことは整理されているように思われます。そこで目指すところとして、理想の施設環境を語っていただけますか。

鈴木 栃木の矢板にできた「とちぎフットボールセンター」はいいですね。人工芝グラウンドが2面並んであり、クラブハウスが

あって、矢板市と矢板市サッカー協会が協力して、地元のNPO法人たかはら那須スポーツクラブ（ヴェルフェ矢板【栃木県社会人1部リーグ】の運営法人）が運営に当たっています。こういう行政との協力体制が大切だと思います。あと、立地は大切ですね。商業施設が隣接しているとなおよしです。

ただ、他の施設も含めてですが、グラウンドとグラウンドの間を少し空けて欲しいですね。ゲリラ雷雨や暑熱対策を考えると、そこに屋根をつけたベンチ、もしくはテントをおけるようになってほしいなと。

以前、A級ライセンスを取得するため、大阪の「J-GREEN 堺」に3回通いました。2回目に行ったときは天然芝での講習でしたが、ホントに足腰への負担が違いましたね。ですから人工芝グラウンドもあり、天然芝グラウンドもあり、クラブハウスがあって、宿泊ができる施設が埼玉にもできるといいですね。

—そういう夢も、施設委員会として掲げて活動していただきたいと思います。利便性、天然芝グラウンド……実際には難しいかもしれませんが、求め続けていきたいことです。最後にもう一つ。委員会としてのこれからを一言お願いして締めたいと思います。

鈴木 委員会には全種別の代表が集まります。今は調整中心の会議になっていますが、これからは情報交換できる場にしたいと思っています。まずは委員会の中でのコミュニケーションを図り、委員がそれぞれの種別の中、さらに地域で繋がって、施設の利用に関して情報を共有していくことのできる組織にしたいと思います。また、審判や技術ともコラボレーションしながら、講習会と試合をセットにするなどやり方があると思います。少しずつになると思いますが、埼玉のサッカー環境をよくしていくよう努力してまいります。よろしく申し上げます。

—ありがとうございました。



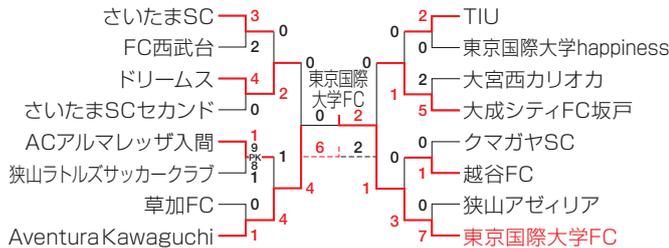
SFA フットボールセンター

大会記録 ● 県内大会

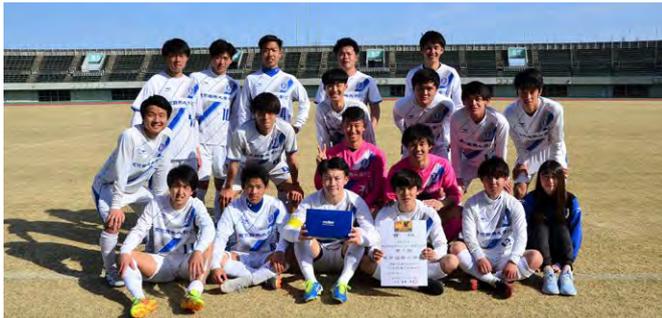
1種社会人

令和2年度 埼玉県社会人サッカー連盟会長杯兼彩の国カップ 埼玉県サッカー選手権大会予選

1月12日～3月1日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他



※優勝は東京国際大学FC



優勝 東京国際大学 FC



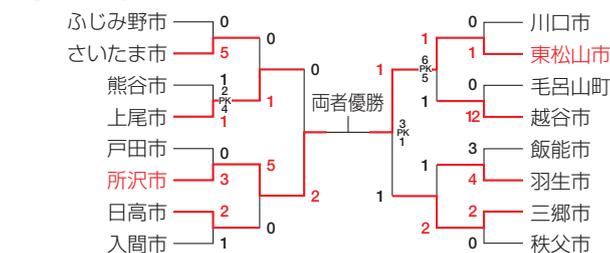
決勝 東京国際大学 FC vs Aventura Kawaguchi



3位決定戦 ドリームス vs 大成シティFC坂戸

2019年度埼玉縣市町村対抗兼県民総合体育大会

2月9日～3月1日 SFAフットボールセンター他



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、所沢市と東松山市の両者優勝とする

3種

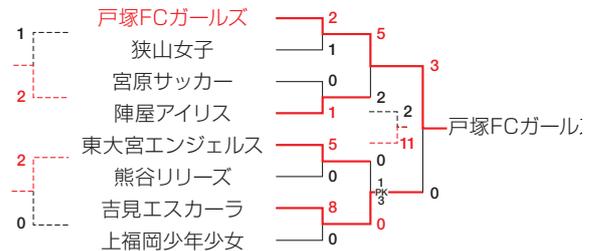
第8回埼玉県ユース(U-13)サッカーリーグ(最終結果)

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	ディプロ	20	6	2	0	13
2	グランデ	16	5	1	2	10
3	FC深谷	15	5	0	3	8
4	プレジール	15	5	0	3	4
5	アスミ	14	4	2	2	6
6	JOGADOR	11	3	2	3	3
7	1FC	10	3	1	4	1
8	フェスタ	3	1	0	7	-23
9	HAN	0	0	0	8	-22

4種

第5回埼玉県4種少女チーム新人戦大会

2月9日、16日 吉見町ふれあい広場 陸上競技場他



※優勝は戸塚FCガールズ

大会記録 ● 県外大会

1種

日本スポーツマスターズ2020サッカー競技 関東予選会

2月8日、9日 セットオーオリブスタジアム



※埼玉県O-35選抜は本大会に出場する



埼玉県O-35選抜

編集後記

4月7日に緊急事態宣言が発令され、SFAでも5月6日までのすべての事業を自粛しています。現在、この緊急事態宣言がいつまで続くのか不透明ですが、各種別、委員会より中止・延期になった事業情報を提供していただきましたので、ご参照ください。直近では全国中学校体育大会、全国高校総体の中止も決定となりました。やるせなさ募る一方ですが、必死に前を向く選手や指導者の皆様にエールを送ります。

SFA NEWS誌上で躍動する試合写真や大会結果をお届けできない状況ですが、今号では社会人連盟と施設委員会の「現状とこれから」についてお話をいただきました。次号以降も種別連盟、専門委員会の取材を続けて参ります。

皆様、引き続きご愛顧くださいますようお願いいたします。(藤田)